TERUMO®

メディセーフボイス®
取扱説明書 とらのまき

- 本書をよくお読みのうえ、医師の指導のもと、正しく安全にご使用ください。
- 本書は、いつでも見ることのできるところに保管してください。

重要なポイント
2〜7ページ

安全にお使いいただくために
18〜21ページ

使いかた
22〜44ページ

困ったときには
52〜62ページ

ご使用者のお名前

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ 様

なぜ血糖値を測定するの？

糖尿病は血液の中のブドウ糖が多くなる病気です。
また糖尿病がもとで眼や腎臓、神経などに障害が起こることも決してめずらしくありません。
迷わず医師に相談することが大切です。
血糖自己測定は糖尿病の患者さんが自分で行い、**医師に血糖値の変化を知らせる**ことで、よりよい治療に役立てるための大切な検査です。

必ずお守りください

⚠警告

●お使いになる前に、この取扱説明書（とらのまき）をよくお読みのうえ、
必ず医師の指示にしたがって正しくご使用ください。

●測定した結果について
疑問を感じたときは、必ず医師に相談してください。
血糖自己測定は、糖尿病の患者さんが自分で血糖値を測定・記録し、医師に変化を知らせることで、よりよい治療に役立てるための大切な検査です。

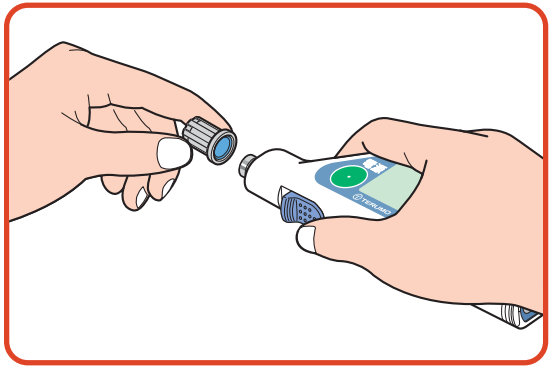
●糖尿病の
治療管理は、必ず医師の指導のもとで行ってください。
とくに、経口薬、インスリンの量や回数は、本人や家族、介護者の判断で変えないでください。

※もしものために、医師の連絡先を確認しておきましょう。

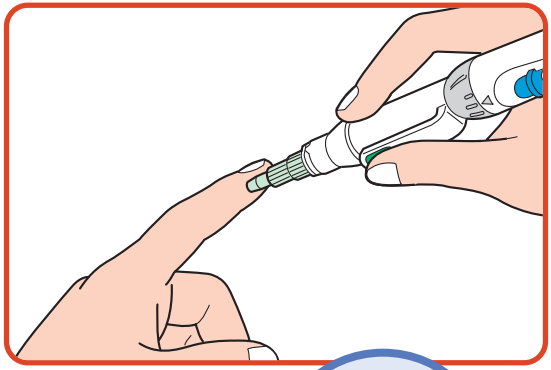
病院名 _____ TEL _____

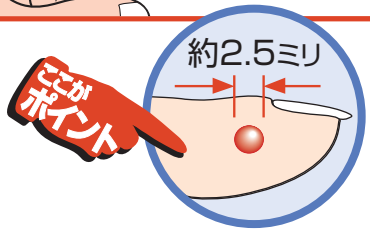
使いかたのあらましと注意

チップをつけて、



穿刺(せんし)して、

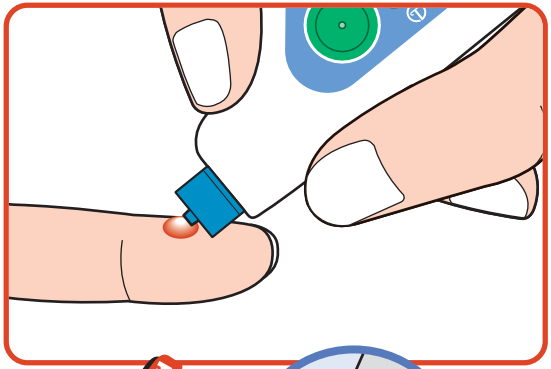


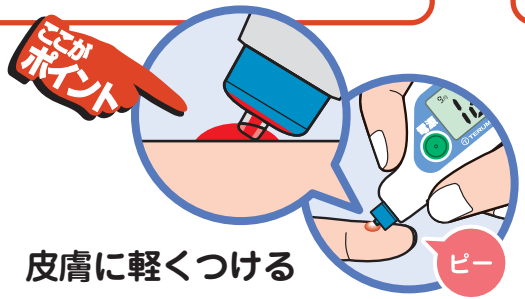


直径約2.5ミリの球状

・「穿刺(せんし)」とは採血や注射などのために、
手指などに針を刺すことをいいます。

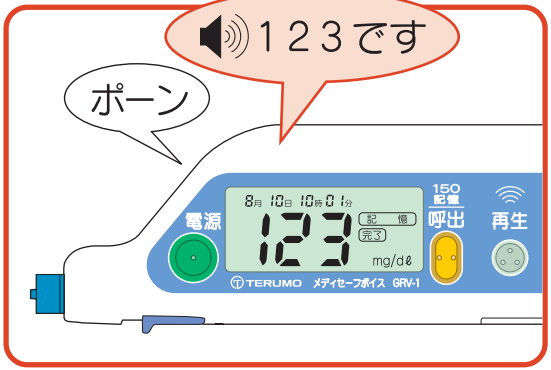
血液を吸引。





皮膚に軽くつける

18秒で測定完了。



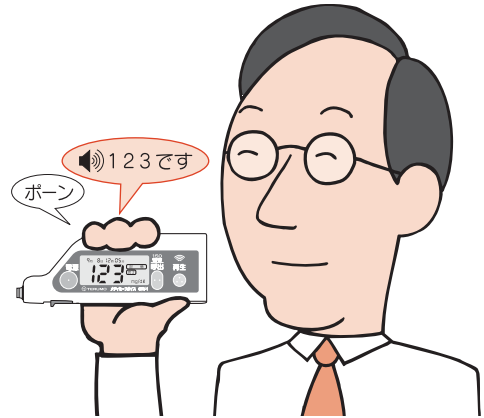
音声と表示でお知らせ。

声でお知らせ

音声ガイドについて

メディセーフボイスは、視力の関係で液晶表示が見にくい方のために、測定値などを音声でお知らせします。
音声ガイドは血糖計の状況、測定値、測定できない理由などをお知らせしますが、使いかたを順に説明していく機能はありません。

●柔らかい布などの上では血糖計の音が聞き取りにくいので、テーブルなど平らで固い面の上で操作してください。

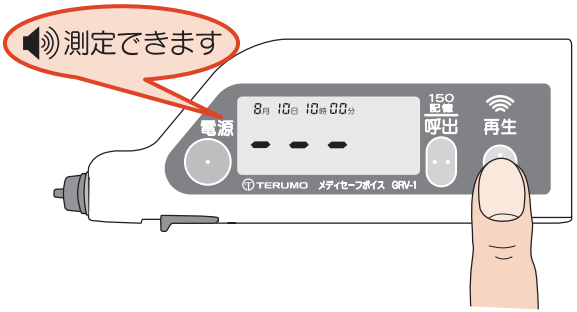


取扱説明カセットテープについて

付属のカセットテープは、メディセーフボイスの使いかたを音声で説明します。視力の弱い方でも取扱方法を簡単に確認できます。

音声ガイドを聞くには

[再生]ボタンを押します。

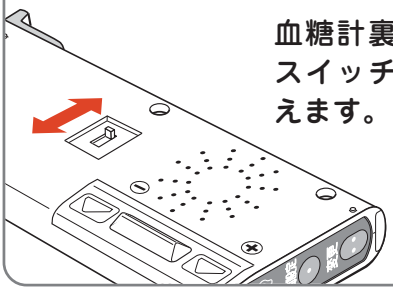


血糖計の状況を、音声でお知らせします。

イヤホンで聴くには

イヤホンのプラグを血糖計側面のジャック(印)にしっかり差し込みます。

音量を変えるには



血糖計裏面の音量スイッチで切り替えます。

目次

ご使用の前に 10

- 製品を確認する…10
- 各部のなまえ…12
- 電池を入れる…13
- 日付と時刻を合わせる…14
- ソフトケースにおさめる…17

安全にお使いいただくために 18

- 注意文の表示内容について…18
- メディセーフボイスをご使用の皆さまへ…19

使いかた 22

- ステップ1. 準備…23
- ステップ2. 測定用チップをつける…25
- ステップ3. 穿刺ペンに針をつけて穿刺する…29
- ステップ4. 測定する…35
- ステップ5. かたづける…39
- 測定値の記録を忘れてしまったとき…43

お手入れ／保守・点検 45

●お手入れ(血糖計が汚れた、血液が付着したとき)…45　●保守・点検…46

血糖値あれこれ 47

こんなときの使いかた 50

●血糖計の状況を確認したい…50

●イヤホンで音声を聴きたいとき…51　●音量を変えたいとき…51

困ったときには 52

●こんな音声・表示が出たら…52

●測りかたで血糖値が変わることがあります…56

●血液を吸引しても測定値が出ない？…58

●電池交換の音声・サインが出たら…61

その他 63

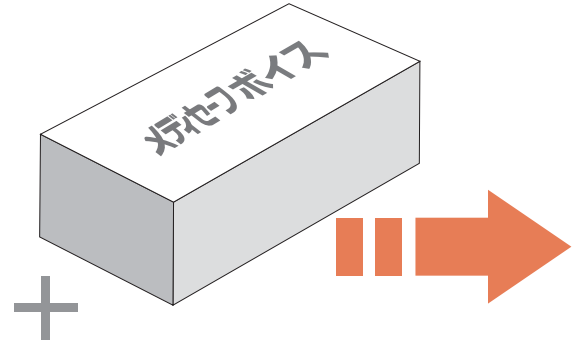
●特殊な使いかた…63　●血糖計の作動テスト…65　●製品一覧…66

●血糖計の仕様…裏表紙見返し　●品質保証書…裏表紙

ご使用の前に

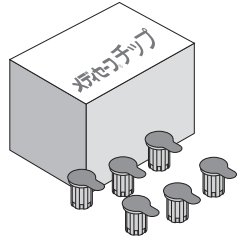
製品を確認する

血糖値を測定するには
「メディセーフボイス」と、
別売りの「測定用チップ」、
「針（ファインタッチ®専用）」、
「穿刺ペン（ファインタッチ®）」
が必要です。

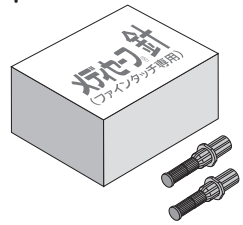


別売り

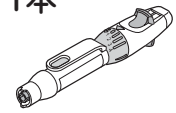
●測定用チップ（25個／30個）



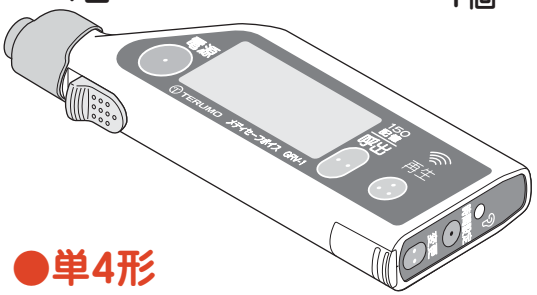
●針（ファインタッチ専用）30本



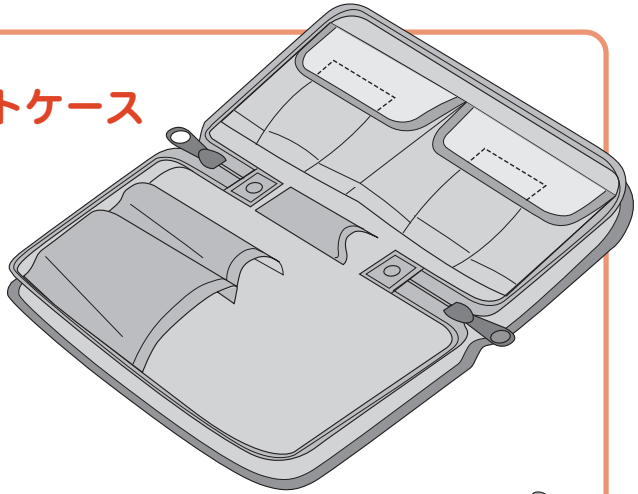
●穿刺ペン（ファインタッチ）1本



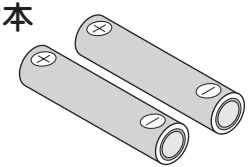
●血糖計
1台



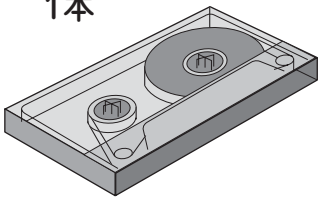
●ソフトケース
1個



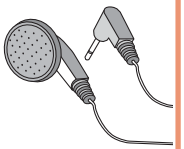
●単4形
アルカリ乾電池
2本



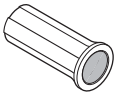
●取扱説明
カセットテープ
1本



●イヤホン
1個

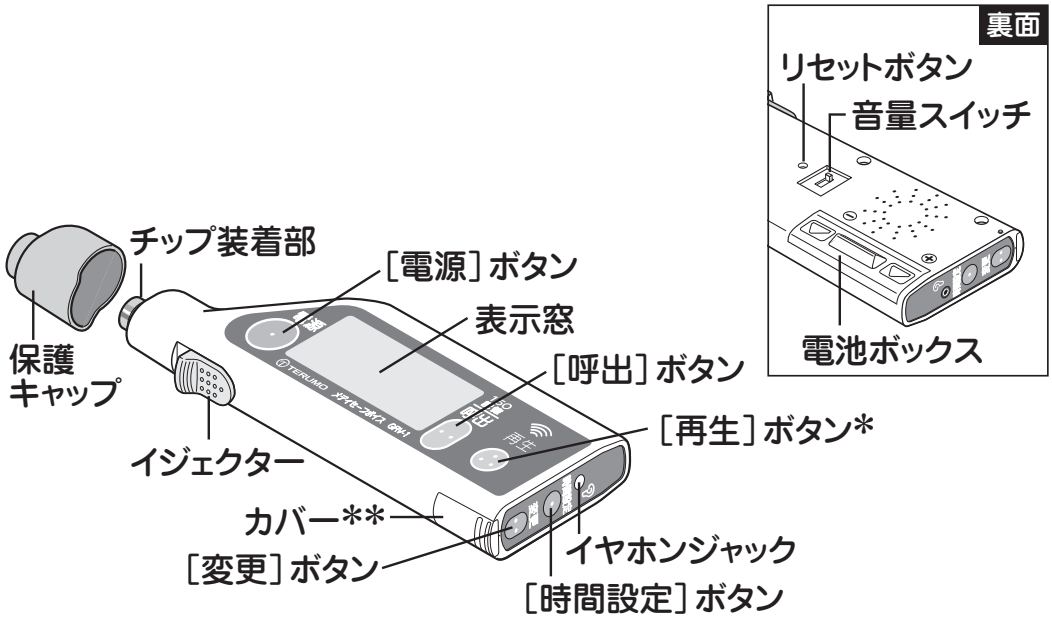


●テスト用
チップ(白)
1個



●取扱説明書(本書)
●添付文書
●ご使用者登録カード
●個人情報保護シール

各部のなまえ

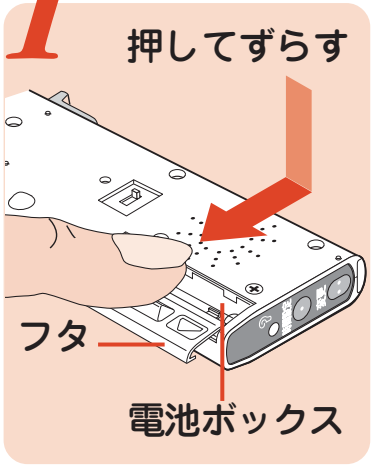


＊　[再生]ボタンは、そのときの血糖計の状態を音声で確認するものです。

＊＊カバーを開くと外部出力用端子があります。

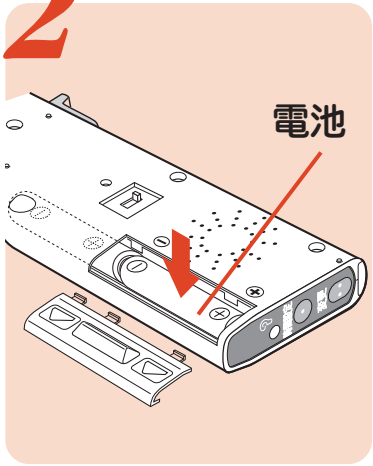
電池を入れる

1



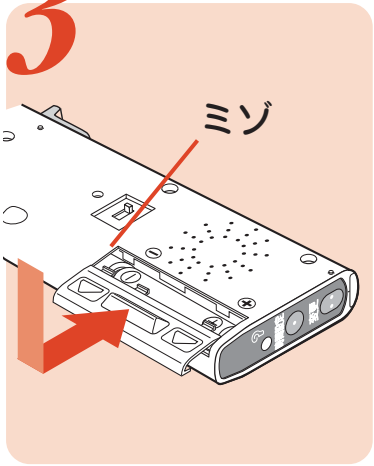
電池ボックスのフタを押しながら、ずらして開ける。

2



単4形アルカリ乾電池を、2本とも⊕側(凸型)を本体の⊕マーク側に向けて入れる。

3

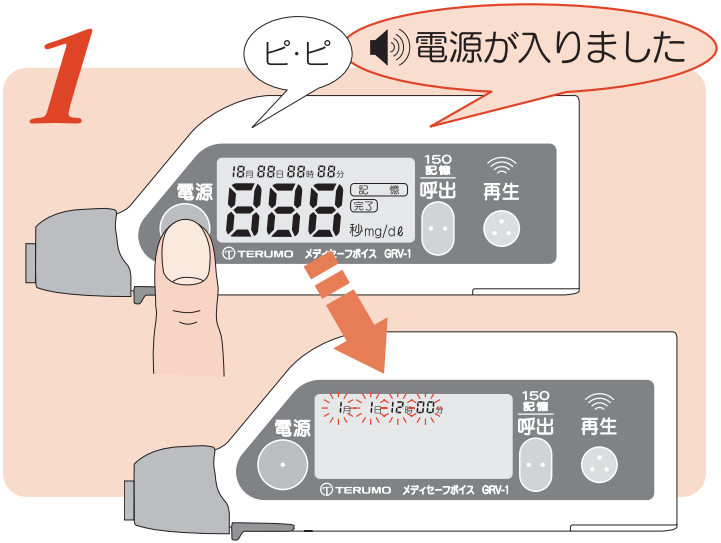


ミゾに添ってフタをずらし、閉める。

- 上から無理に押しこまない。

日付と時刻を合わせる

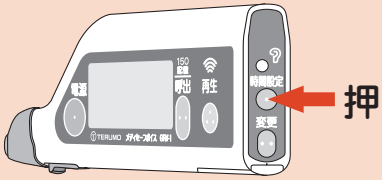
電池をセットしたら、必ず日付と時刻を合わせてください。



保護キャップをつけたまま[電源]ボタンを押す。「電源が入りました」と音声が出る。いったんすべての表示が出てから、「1月1日12時00分」と表示が出る。

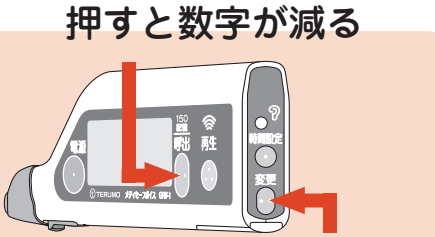
・日付と時刻を合わせるときは音声が出ませんので、表示が見にくい場合は、あらかじめ設定してもらいましょう。

2



側面の[時間設定]ボタンを約2秒間押す。
はじめは年号(西暦)の下2ケタが大きい数字で表示される。

3



(2006年の設定例です。)

[変更]ボタンを押して「現在の年」に合わせる。

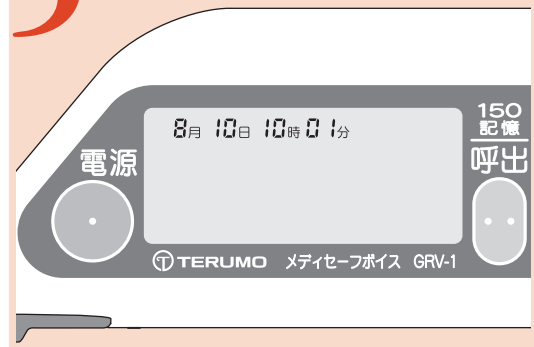
- 1回押すと数字がひとつずつ増え、押し続けると早送りする。
- 行きすぎたら、[呼出]ボタンを押して数字を減らす。押し続けると早送りする。

4

点滅を止める
点滅位置を送る

「年」を合わせたら［時間設定］ボタンを押す。「月」数字［1］が点滅し、大きい数字で［01］が表示される。

5

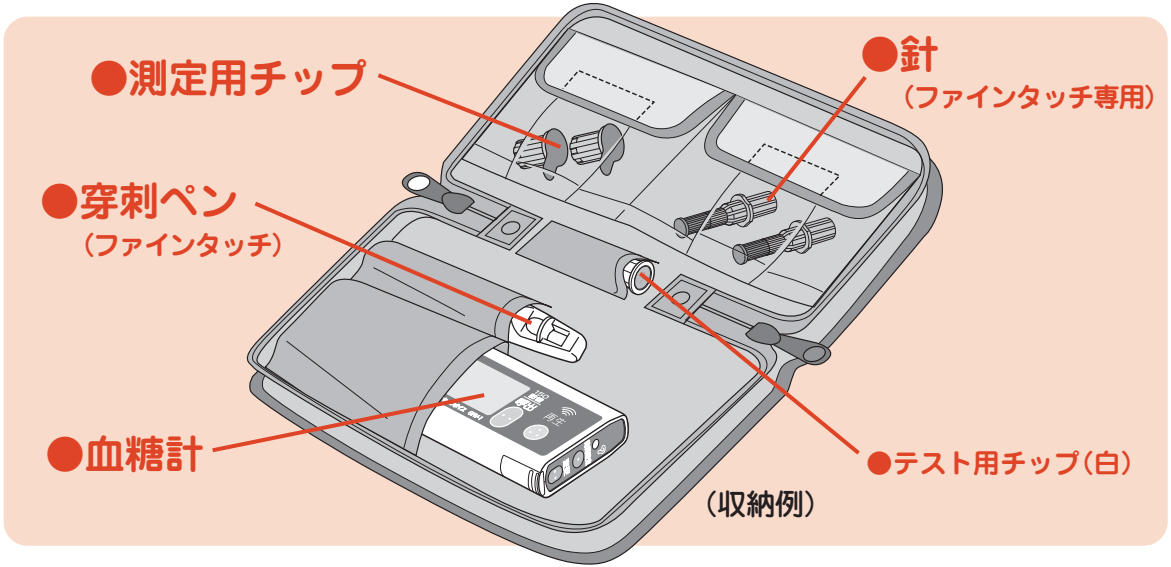


（現在時刻8月10日 10時01分の設定例です。）

手順 *3* と *4* をくり返し、現在の「月」「日」「時」「分」も合わせる。すべて数字の点滅が止まったら完了。

- 日付と時刻を合わせないと、測定データはすべて「(99年) 1月1日12時00分」で記憶されます。

ソフトケースにおさめる



今後測定しやすいように、血糖計、穿刺ペン（ファインタッチ）、針（ファインタッチ専用）、測定用チップをケースにおさめる。

- 穿刺ペン（ファインタッチ）、針（ファインタッチ専用）、測定用チップは別売りです。
- テスト用チップ（白）は、通常使いませんが、なくさないように保管してください。（65ページ参照）

安全にお使いいただくために

注意文の表示内容について

本書では、表示内容に従わず、誤った使いかたをしたときに生じる危害や損害の程度を次の区分で表示し、説明しています。
表示内容に従わず、本来の目的から逸脱した使いかたにより、万一、死亡や重傷を負ったり、物的損害が発生しても、弊社は一切責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

⚠禁忌・禁止	絶対に行ってはいけないことを示します。 ・本装置の性能を超える、または不適切な使いかたにより、死亡または重症を負う危険性があります。
⚠警告	特に注意していただきたいことを示します。 ・適正に使用しても、注意を怠ると死亡または重傷を負う可能性が想定されます。
⚠注意	使用にあたり、一般的な注意を示します。 ・誤って使うと、傷害を負う可能性、または物的損害※のみの発生が想定されます。 ※物的損害とは、家屋、家財、および家畜、ペットにかかわる拡大損害を示します。

メディセーフボイスをご使用の皆さまへ

⚠禁忌・禁止

●一度使用した針や測定用チップは、絶対に再使用しないでください。感染の原因となります。

●穿刺ペンを保管するときは、針をはずしてください。穿刺の深さの調節が、正常に行えなくなることがあります。

⚠警告

●採血の前には、必ず穿刺する部位をアルコール綿などで消毒してください。感染の原因となります。

●採血後は、必ず絆創膏などで止血してください。感染の原因となります。

●血液や血液がついた器具、ティッシュペーパーなどは、他の人が触れないようにしてください。血液を介して感染する原因になります。

●低血糖が疑われる場合は、指先(てのひらも可)から採血してください。前記部分以外の部位(前腕部、上腕部など)から採血した場合は、測定した部位により測定値に差の生じることがあります。

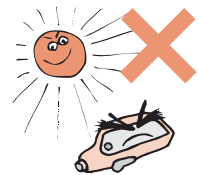
●子供の手の届かない場所に保管してください。電池、測定用チップ、チップケースおよびフィルムシールや乾燥剤などは、誤って飲み込む原因となります。また針や穿刺ペンを誤って使用し、誤刺する原因となります。

⚠注意

- 血糖計や穿刺ペン(ファインタッチ)は分解・改造しないでください。故障やケガの原因になります。
- 血糖測定以外の目的に使用しないでください。故障やケガの原因になります。
- 使用期限を過ぎた針や測定用チップは使わないでください。事故などの原因になります。使用期限は外箱に表示してあります。
- 温度10～35℃の結露しない場所で使用してください。温度が低すぎたり高すぎたりすると、正しく測れないことがあります。
- 包装が破損、汚損している場合や、製品に破損等の異常が認められる場合は使用しないでください。
  特に穿刺ペンは故障した場合、誤刺する危険性があります。穿刺操作以外では針先端に触れないようにしてください。
- 血糖計や測定用チップはあらかじめ使用場所に20分以上放置し、使用場所との温度差をなくしてから測定してください。

血糖計について

- 直射日光などの強い光が当たる場所で使わないでください。光の影響で測れないことがあります。



- 落としたり、ぶつけたりしないでください。故障の原因になります。また、自動車のダッシュボードなど、強い振動が伝わる場所に置かないでください。

⚠注意

血糖計について

●携帯電話、マイクロ波治療器など電磁波を発生する機器から1メートル以上離してください。近すぎると正しく作動しないことがあります。

測定用チップについて

●ケースが破損したり、汚れているもの、ケース外周のシールが破れているものは使わないでください。

電池交換について

●電池の交換は、電池ボックスのフタをはずしてから20分以内に完了してください。電池を取りはずして20分を超えると、時計の設定がずれることがあります。

●電池は単4形アルカリ乾電池を、2本とも＋側を本体の⊕マーク側に合わせて入れてください。入れまちがえると記憶データが消え、時計の設定が解除されることがあります。

●電池交換の際に、電池に油やほこりなどがつかないようにしてください。故障の原因になります。

●使用済みの電池は他のゴミと一緒に捨てないでください。また、火の中に投入しないでください。事故などの原因になります。

使いかた 5ステップ

ステップ1 準備……23ページ

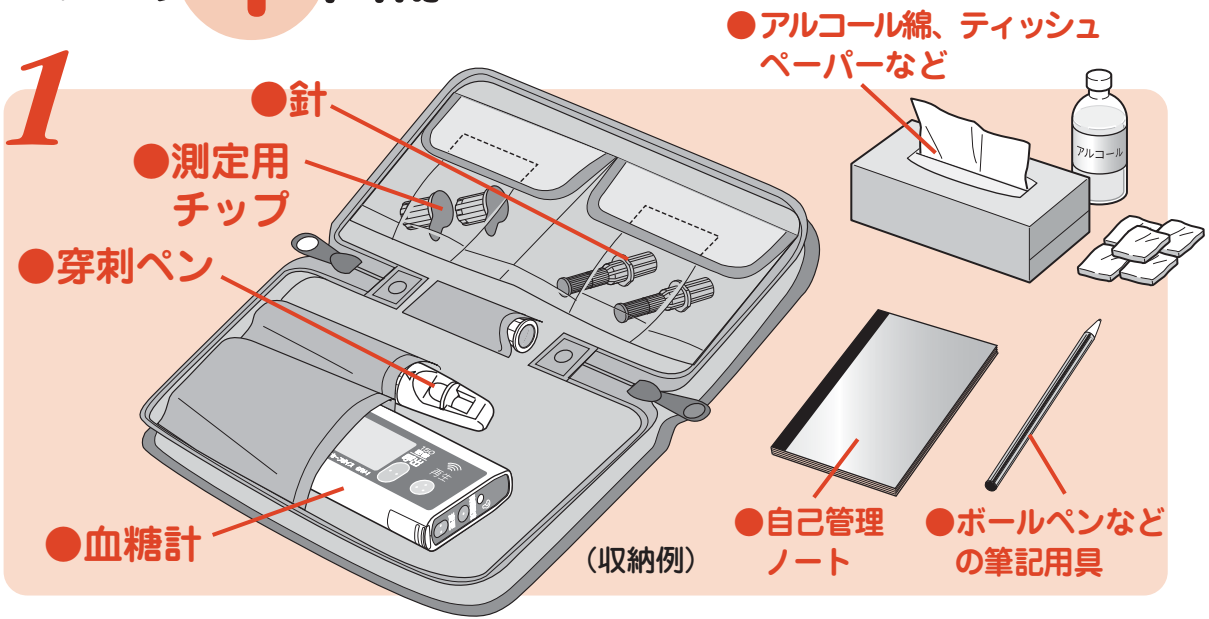
ステップ2 測定用チップをつける……25ページ

ステップ3 穿刺ペンに針をつけて穿刺する……29ページ

ステップ4 測定する……35ページ

ステップ5 かたづける……39ページ

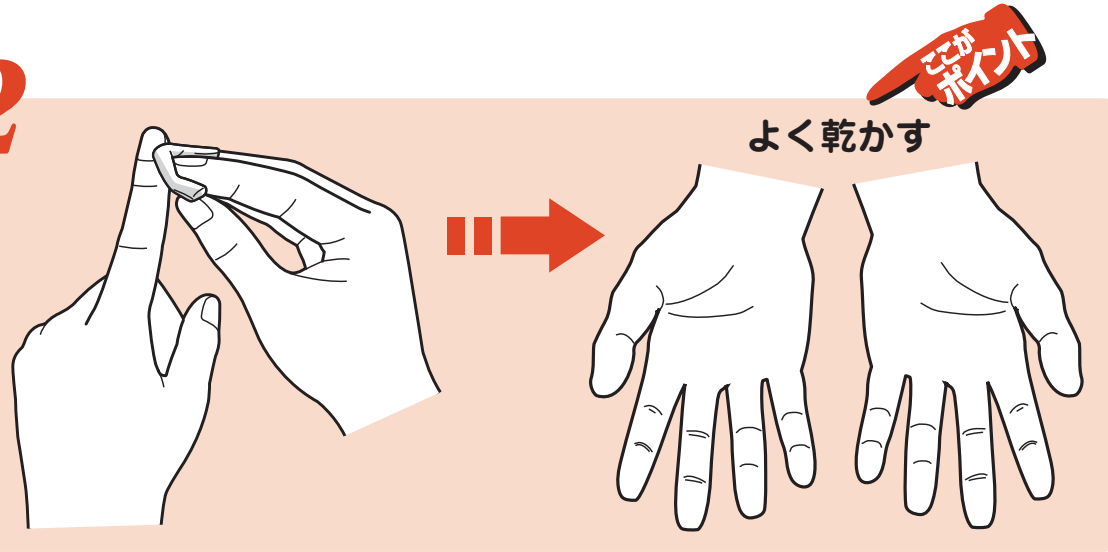
ステップ1 準備



必要なものを準備する。

・「自己管理ノート」の入手については、病院またはテルモ・コールセンターに連絡してください。

2



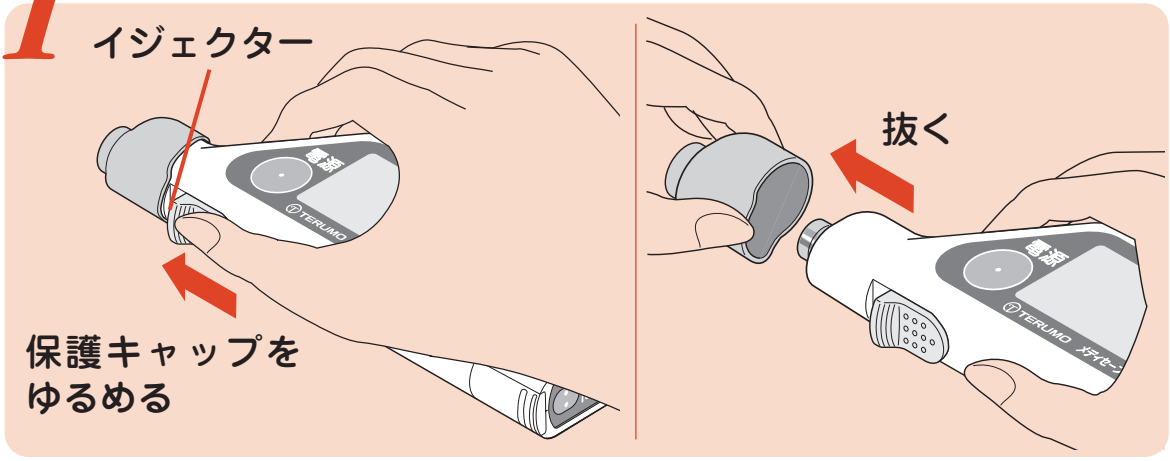
アルコール綿などで消毒する。

●測定する指(穿刺する指)をアルコール綿などで消毒し、充分に乾かしてください。

⚠警告 ●採血の前には、必ず穿刺をする部位をアルコール綿などで消毒してください。感染の原因となります。

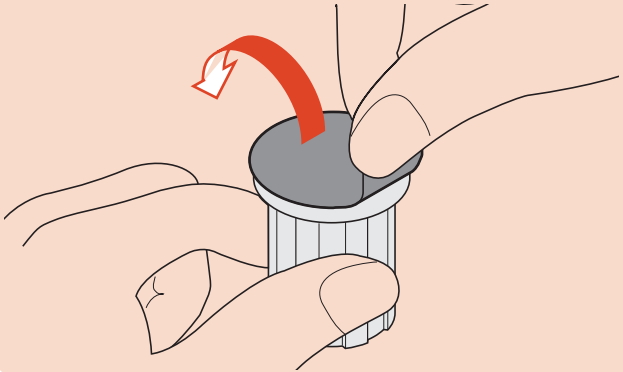
ステップ2 測定用チップをつける

1

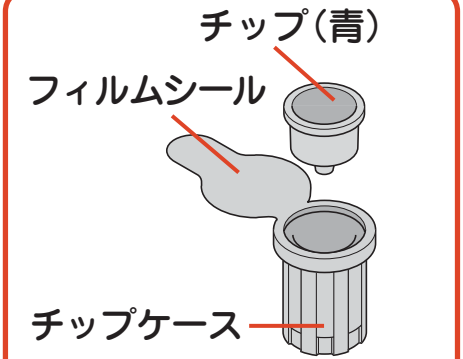


イジェクターを前に押しだして、保護キャップをゆるめてからとる。

2 フィルムシールをはがす

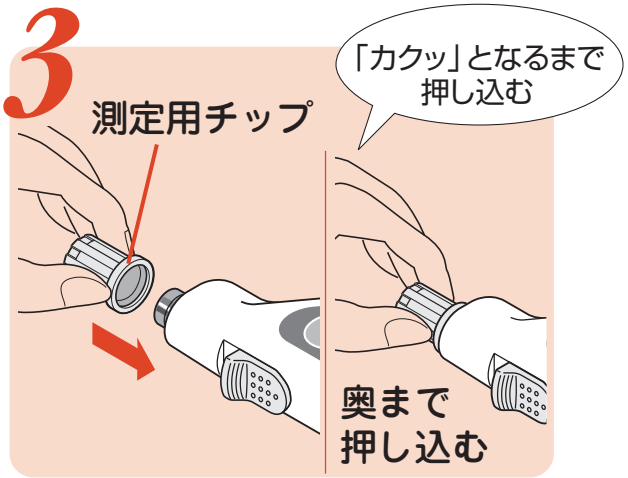


●測定用チップの構造



測定用チップのフィルムシールをはがす。

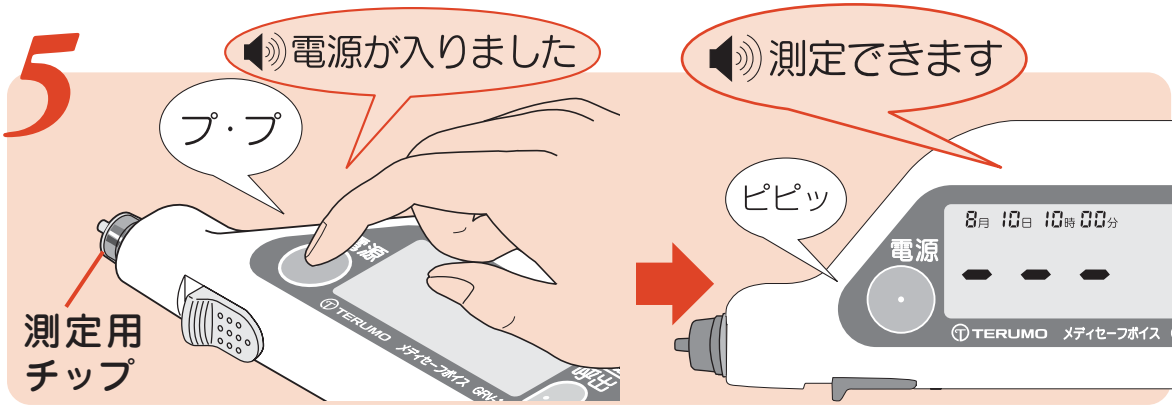
●測定用チップはフィルムシールをはがしたらすぐに使ってください。フィルムシールをはがしてから時間がたつと、測定用チップが湿気を帯びて正しく測定できないことがあります。



チップケースを血糖計の先に押し込む。

チップケースをまっすぐ引いてはずす。青い測定用チップが残る。

- まっすぐ押し込んでください。
- チップケースはまだ捨てないでください。後で測定用チップを捨てるために使います。
- 装着感(カクッとはまる感じ)があるまで、しっかり押し込んでください。浅いと、正しく測定できないことがあります。
- かたづけるまでは、イジェクターには触れないでください。

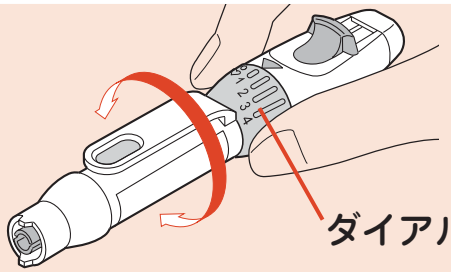


[電源]ボタンを押す。「プ・プ」と鳴り、「電源が入りました」と音声が出る。5秒以内に「ピピッ」と鳴り、「測定できます」と音声が出て[- - -]と表示される。

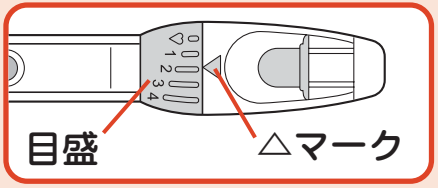
●次のような音声・表示が出るときは、52ページの「こんな表示が出たら」を参照してください。
・[no]表示が点滅し、「正しいチップがついていません」の音声が出る。
・[L]表示が出て、「周囲が明るすぎます」の音声が出る。
●[月・日・時・分]表示が点滅していたら14～16ページの「日付と時刻を合わせる」を参照してください。

ステップ3 穿刺ペンに針をつけて穿刺する

1



目盛数字と△マークを合わせる



穿刺ペンのダイアルを回し、穿刺の深さを調節する。

目盛りを選ぶときのめやす	浅い ⟷ 深い
	♡ 1：やわらかく、薄い皮膚
	2 3：平均的な皮膚
	4：厚くて、かたい皮膚

・♡マークのない穿刺ペンもあります。

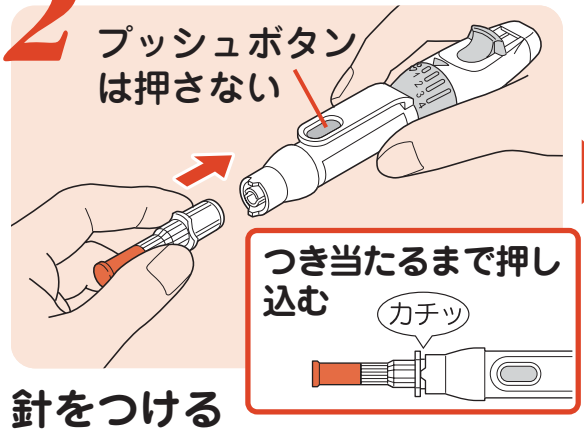
目盛数字を決めるときは、浅いほうから試す。

●目盛数字が大きいほど、針が深く刺さります。

●数字と数字の間では設定できません。かならず△マークにぴったり合わせてください。

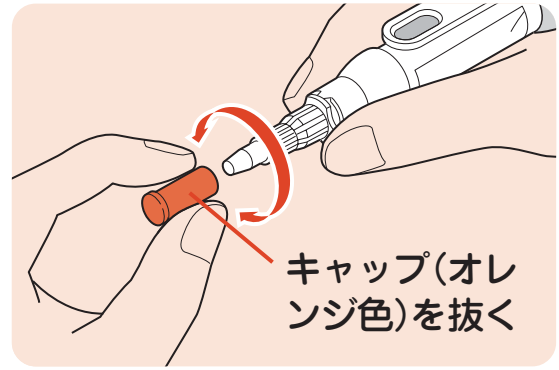
⚠注意

●穿刺ペンに破損などの異常がある場合は、使用しないでください。



針をつける

- 誤ってプッシュボタンを押してしまった場合は32ページをご覧ください。
- 針は、専用の針(ファインタッチ専用)をご使用ください。

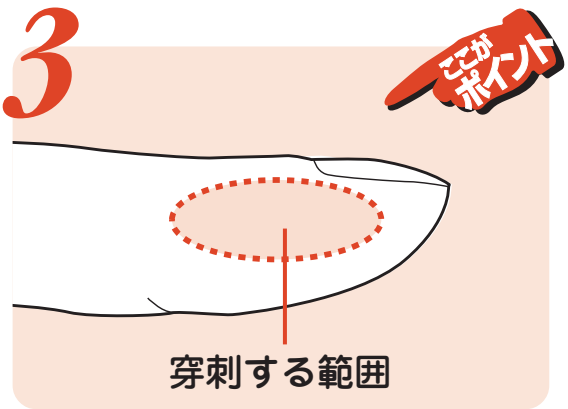


針の根本を手で押さえながらキャップをねじって抜く。

- キャップは捨てないでください。後で針を捨てるために再度使用します。

⚠注意

- キャップをはずした針はすぐ使用してください。



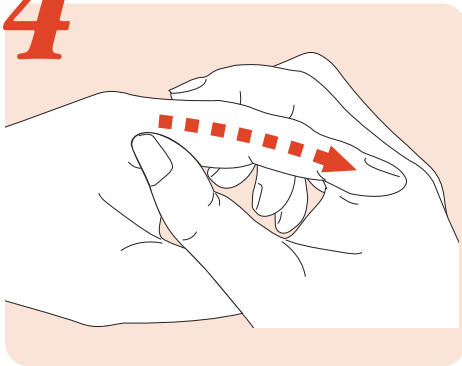
穿刺する場所を決める

⚠警告

●低血糖が疑われる場合は、指先（てのひらも可）から採血してください。 前記部分以外の部位（前腕部、上腕部など）から採血した場合は、測定した部位により測定値に差の生じることがあります。

●穿刺する場所は指の側面を選んでください。
●左右どちらの手でも、どの指でも測定できます。
●測定のたびに、穿刺する場所を変えてください。同じ場所を繰り返し穿刺すると、皮膚がかたくなることがあります。

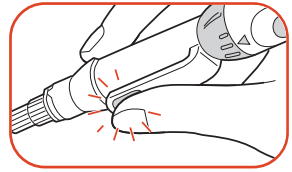
4



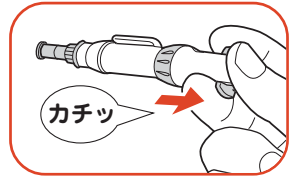
指をマッサージする

●手を心臓よりも下におろし、指のつけ根から指先に向かってマッサージしてください。

誤ってプッシュボタン押してしまったら･･･



誤ってプッシュボタンを押してしまうと、もう一度押しても、針は出ません。

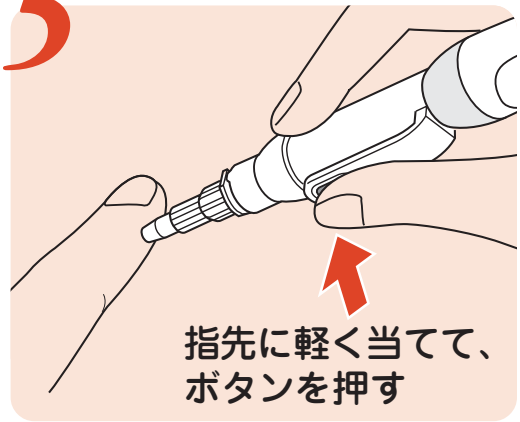


針を取りつけたまま、セットレバーを「カチッ」と音がするまで、いっぱいに引いてください。

⚠注意

●未使用でも一度はずした針は使用できません。

5



針を指先に当てて、プッシュボタンを押す。

●ボタンを押すと、瞬間的に針先が指を穿刺します(軽い痛みを感じます)。

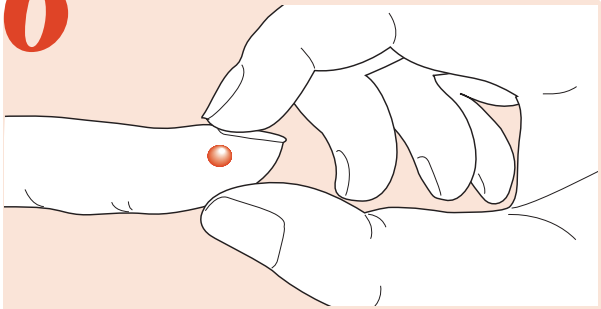
⚠禁忌・禁止

●一度使用した針や測定用チップは絶対に再使用しないでください。感染の原因となります。

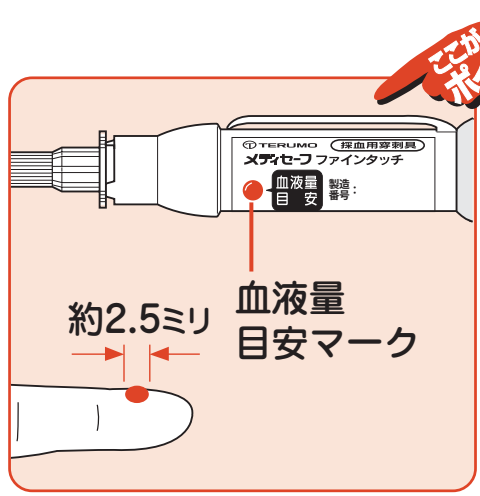
⚠注意

●バネが弱くなり、充分な採血ができなくなったら、新しいものをお買い求めください。

6



血液が約2.5ミリの
球状になるまで



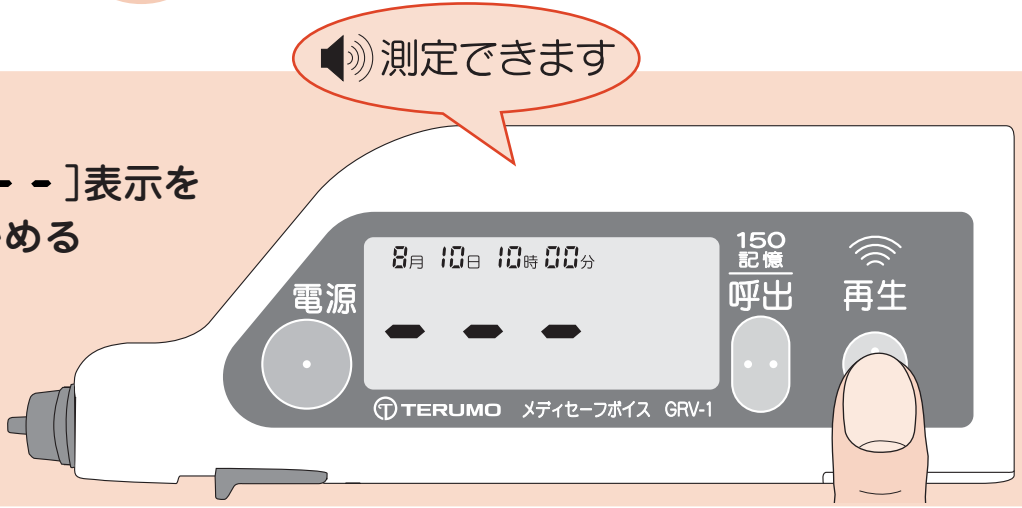
指先を軽く押して血液を出す

- 穿刺ペンの側面にある血液量目安マークの大きさを参考にしてください。
- 血液が流れないように、傷口を上に向けてください。
- 血液は空気に触れるとすぐにかたまりはじめます。必要な量の血液が出たら、すぐに測定に進んでください。

ステップ4 測定する

1

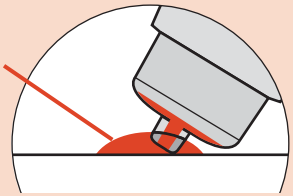
[－－－]表示を
確かめる



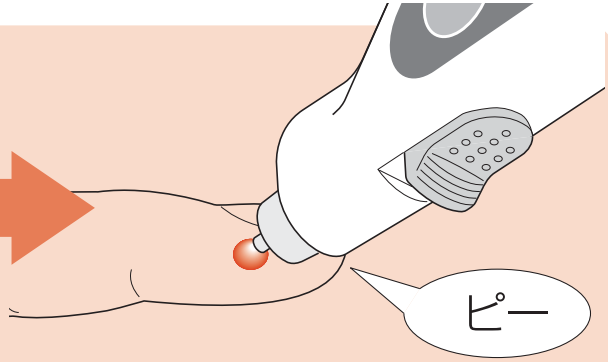
血糖計が[－－－]と表示されていることを確認する。
何も表示されていないときは[電源]ボタンを押し、[－－－]と表示されるまで待つ。

●[再生]ボタンを押すと、「測定できます」と音声が出ます。

2



測定用チップの先端を
皮膚に軽くつける



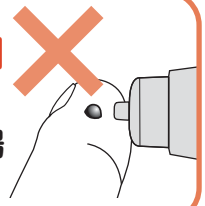
測定用チップの先端から血液を吸引する ➡ 血液が自動的に吸引される

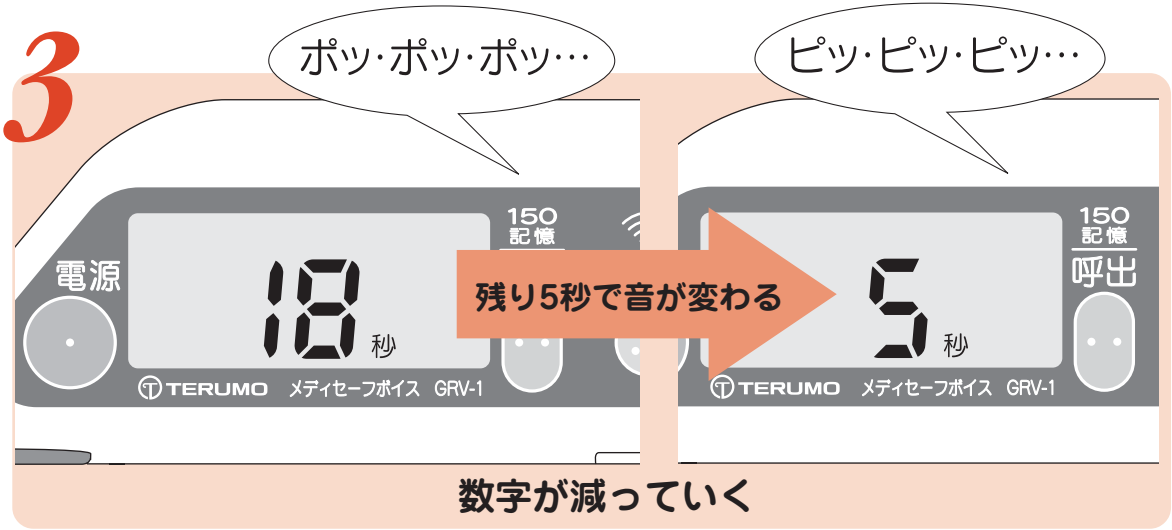
- 「ピー」と鳴ったら、先端をすぐに血液から離します。
- 皮膚に強く押しつけると、血液が吸引されません。

ここがポイント

真横から測定用チップをつけない

血液を吸引しにくい場合があります。



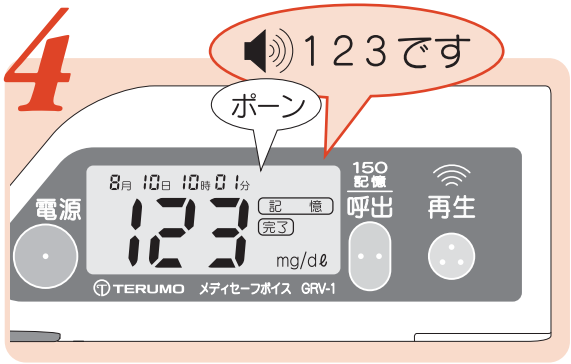


測定完了までの秒数(18秒)が表示される。
血糖計を静かに置いて待つ。
穿刺した指先は、ティッシュペーパーなどで拭き、清潔に保つ。

⚠警告

- 採血後は、必ず絆創膏などで止血してください。感染の原因になります。
- 血液や血液がついた器具、ティッシュペーパーなどは、他の人が触れないようにしてください。
  血液を介して感染する原因になります。

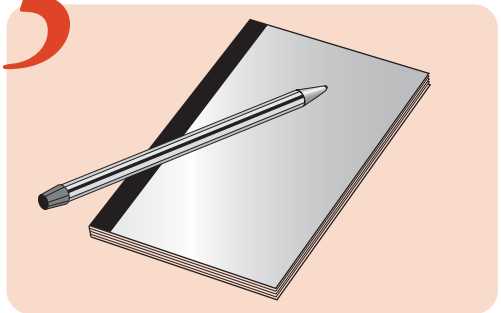
4



「ポーン」と鳴り、測定値が表示され、音声で知らせる。

- 測定値は150回まで自動的に記憶されます。過去の測定値を見る方法は、43ページをご覧ください。
- 測定値以外が表示されるときは、52～55ページをご覧ください。

5



自己管理ノート(SMBGノートなど)に測定値を記録する。

測定値をもとにした判断は、自分でせず、**医師に相談**しましょう。

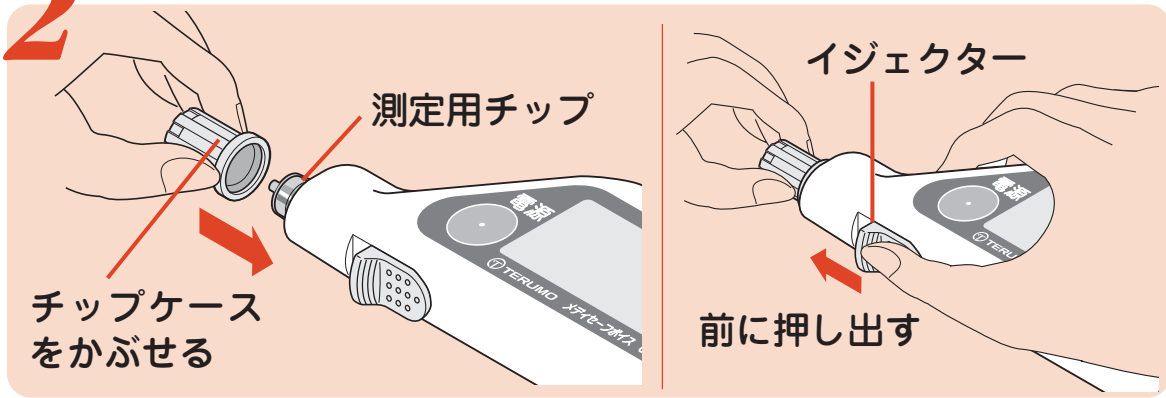
ステップ5 かたづける

1

[電源]ボタンを1秒以上押し続けて電源を切る。

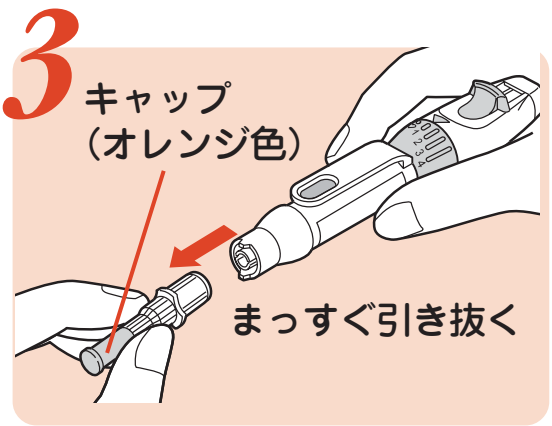
●電源を切り忘れても約5分後には「ピー」と鳴って自動的に切れます。

2



測定用チップに空のチップケースをかぶせる。
イジェクターを前に押し出して、測定用チップをはずす。

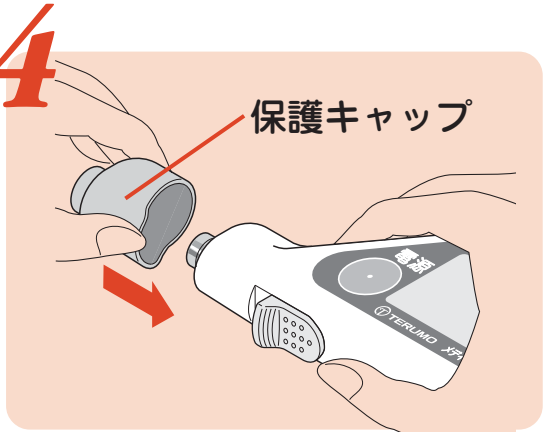
●かならずチップケースをかぶせてください。チップケースを使わないと、測定用チップや血液が飛び出すことがあります。



必ず針にキャップをかぶせてからはずす。

⚠禁忌・禁止

- ●一度使用した針は、絶対に再使用しないでください。感染の原因になります。
- ●穿刺ペンを保管するときは、針をはずしてください。穿刺の深さの調節が、正常に行えなくなることがあります。

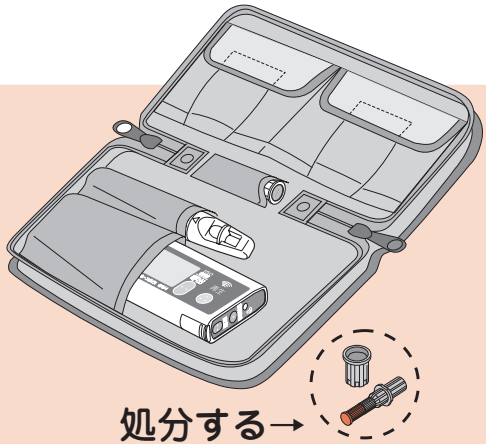


血糖計に保護キャップをかぶせる。

⚠注意

- ●保護キャップをかぶせないと汚れやほこりがつき、正常な測定ができないことがあります。

5



血糖計、穿刺ペンはソフトケースに戻す。
使用済みの測定用チップと針は、病院や医師の指示に従って処分する。

⚠注意

●使用済みの測定用チップと針を一般のゴミと一緒にしないでください。 血液が付着しているため、事故や感染のおそれがあります。

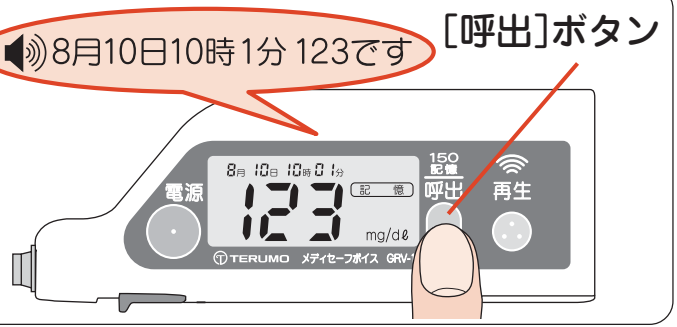
測定値の記録を忘れてしまったとき

この血糖計は、以前の測定値を最大150回まで記憶しています。[呼出]ボタンを押して自動記憶された測定値を呼び出し、自己管理ノートに記録してください。

・測定用チップをつけて[－－－]が表示されているときは、呼び出しができません。一度測定用チップをはずし、[－－－]表示が消えたのを確認してから呼び出してください。

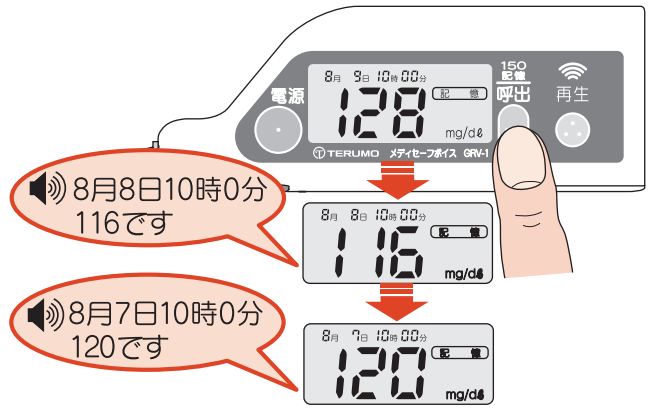
電源が入っている状態で、[呼出]ボタンを押す。

最新の測定値が表示され、音声で知らせる



続けて[呼出]ボタンを押す。

さらに以前の測定値が表示され、音声で知らせる。
押したままにすると、「ピ・ピ」と鳴り、以前の測定値をさかのぼる。
ボタンを離すと、その時点の測定値が表示され、音声で知らせる。



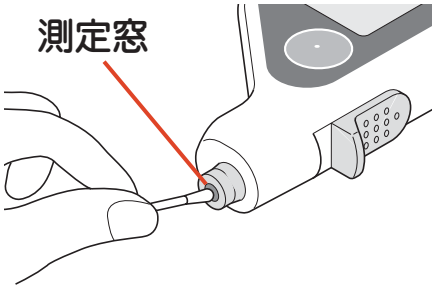
・測定値は最大**150回**まで記憶できます。151回以上測定したときには、一番古い測定値から消されて、新しい測定値が記憶されます。
・電池を抜き取っても、記憶は消えません。
・日付と時刻を合わせないで使ったときは、すべて「(99年)1月1日12時00分」と記憶されます。
・「H」(600mg/dL超)「Lo」(20mg/dL未満)も記憶されます。(54ページ参照)

お手入れ(血糖計が汚れた、血液が付着したとき)

血糖計が汚れたり、チップ装着部に血液等が付着した場合は、水または消毒用アルコールを軽くしめらせた布(またはティッシュなど)で拭きとります。
●シンナーやベンジンは使わないでください。

測定窓のお手入れ

血糖計の先の(穴の部分)のほこり、汚れは、乾いた綿棒などで拭きとってください。測定窓を傷つけないようにしてください。
●測定窓には水や消毒用アルコールは使わないでください。装置内にしみ込むと、故障することがあります。



保守・点検

保守・点検時には、外観に汚れや破損などがないこと、表示部がすべて点灯することを確認してください。

項目	頻度	内容
外観	毎回	汚れ、破損等
液晶点検	毎回	全灯時の欠けがないこと
自動点検	毎回	測定用チップ装着後、- - - が表示されること

通常測定時の自動点検機能について

血糖計は通常の測定時に毎回自動点検を行っています。
測定用チップ装着後［- - -］が表示されれば、血糖計は正常です。
それ以外が表示されたときには、「こんな音声・表示が出たら」(52ページ)をご覧ください。

保管方法

血糖計の保管	●チップ装着部は、いつも清潔にしておいてください。 ・保管環境／周囲温度： −10〜50℃ ・相対湿度：30〜95% （ただし結露なきこと）
測定用チップの保管	●室温(1〜30℃)で保存してください。
穿刺ペンの保管	●針を取りつけたまま保管しないでください。穿刺の深さが正常に調節できなくなる場合があります。 ●水ぬれに注意し、直射日光および高温多湿を避けて保管してください。

血糖値あれこれ

Q よりよい血糖値のめやすは?

日本糖尿病学会編集「科学的根拠に基づく糖尿病診療ガイドライン」に記載されている血糖コントロールの指標と評価は表のとおりです。

指標	コントロールの評価とその範囲				
	優	良	可		不可
			不十分	不良	
HbA1c(%)	5.8未満	5.8～6.5未満	6.5～7.0未満	7.0～8.0未満	8.0以上
空腹時血糖値(mg/dL)	80～110未満	110～130未満	130～160未満		160以上
食後2時間血糖(mg/dL)	80～140未満	140～180未満	180～220未満		220以上

日本糖尿病学会編「科学的根拠に基づく糖尿病ガイドライン」15ページ，南江堂，2004より引用

⚠注意

- 測定値に疑問を感じたときは医師にご相談ください。
- 治療目標値については、医師の指示を受けてください。

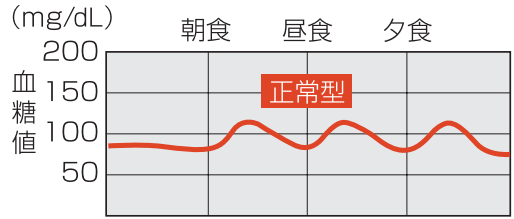
Q どんなときに血糖値が上下するの？

➔ 血糖値は時々刻々と変化しています。

●食物中の糖分は腸で吸収され、血液の中にはいって全身に運ばれ、エネルギー源として利用されます。したがって食事をすると血糖値は高くなり、時間がたつと筋肉をはじめ全身の細胞の中で消費されて血糖値は低くなります。はげしい運動をするとお腹がすくのは、血糖値が低くなったからです。

●血糖値は食事や運動のほかに、体調や心の状態などでも変動します。
目標とする血糖値については、医師に相談してください。

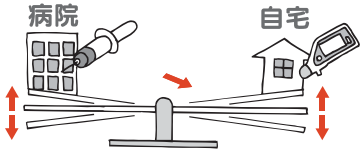
一日の血糖値変化（健康な場合）



●監修（48～49ページ）　東京女子医科大学糖尿病センター　教授　内潟安子先生

Q 病院で測ったときと血糖値がちがうけれど？

➔ 次のような原因が考えられます。



●測定時刻が違う

血圧と同じく血糖値も刻々と変化します。
これは、体を動かせば糖分が消費され、食事をすれば糖分が吸収されるように、血液中のブドウ糖の量が時々刻々と変化しているためです。

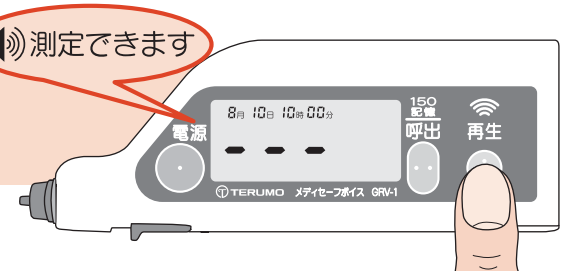
●採血した部位が違う

血液は心臓から動脈を通って全身の毛細血管に達し、各組織にブドウ糖などの栄養をあたえ、静脈を通って戻ります。採血するのは指先の毛細血管ですから、ちょうどブドウ糖が組織に配られている場所です。これに対して腕などから採血する静脈血は、ブドウ糖が消費された後の血液です。
したがって、病院で腕から採血した値と、指先の値は異なります。

こんなときの使いかた

血糖計の状況を確認したい

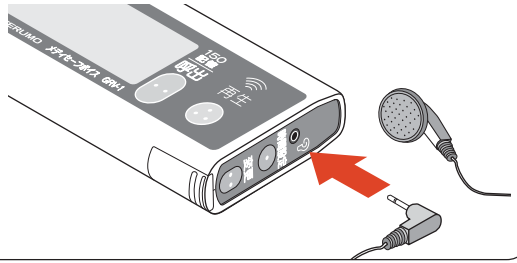
[再生]ボタンを押してください。
血糖計の状況が音声でわかります。



・血糖計が測定できる状況なら「測定できます」と音声が出ます。
・測定値のみが出たら、それは前回の測定値です。
・上記以外の音声が出たときは、52～55ページの「こんな音声・表示が出たら」を参照してください。

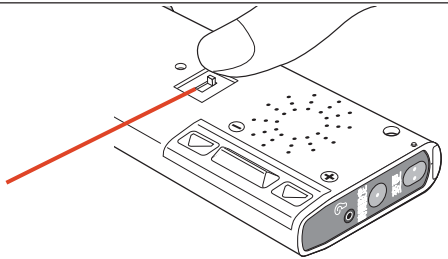
イヤホンで音声を聴きたいとき

イヤホンのプラグを血糖計側面のジャック(印)にしっかり差し込みます。
音声をイヤホンで聴くことができます。



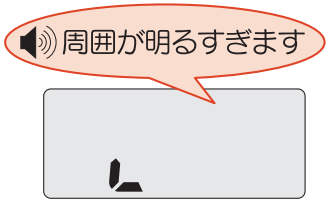
音量を変えたいとき

血糖計裏面の音量スイッチをスライドさせると、音量が大・小・切の3段階に変わります。



困ったときには

こんな音声・表示が出たら

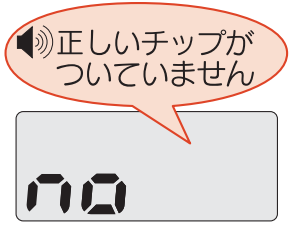


●測定用チップがついていない。

・測定用チップをつけてください。

●周囲（測定用チップの先が向いている方向）が明るすぎる。

・測定用チップを暗いほうに向けるか、直射日光の当たらない場所に移動して、はじめから測りなおしてください。（60ページ参照）



●保護キャップをかぶせたままになっている。

・これから測る場合は保護キャップをはずしてください。

●測定用チップがついていないか、測定用チップが斜めに入ったり、入りかたが浅かったりしている。

・測定用チップをつけなおしてください。

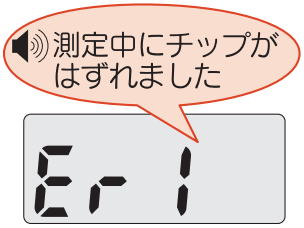
●使用済みの測定用チップがついている。

・新しい測定用チップをつけなおしてください。（59ページ参照）

●測定窓にほこり、汚れなどがついている。

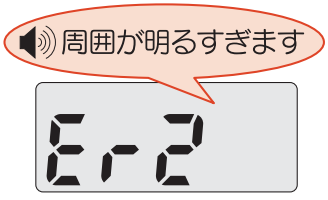
・45ページを参照して、測定窓のお手入れをしてください。

●それでも[no]が消えない場合は、病院またはテルモ・コールセンターにご連絡ください。



●測定中に測定用チップがはずれた。

・新しい測定用チップをつけなおして、はじめから測りなおしてください。

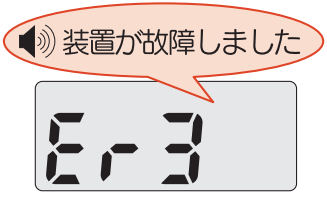


●周囲(測定用チップの先が向いている方向)が明るすぎるので測定を中止した。

・測定用チップを暗いほうに向けるか、直射日光の当たらない場所に移動して、はじめから測りなおしてください。

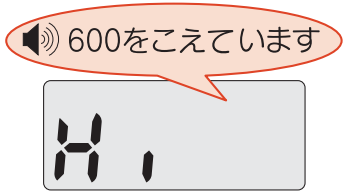
●測定中に測定用チップがはずれた。

・新しい測定用チップをつけなおして、はじめから測りなおしてください。



●故障した。

・病院またはテルモ･コールセンターにご連絡ください。

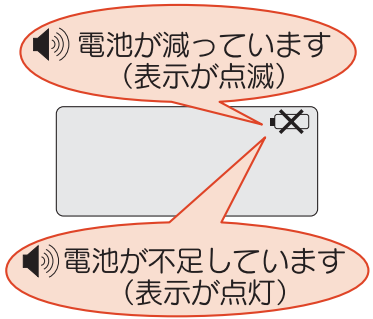


●血糖値が600mg/dLより高い。

・テスト用チップ(白)を使って本体の機能をチェックし、はじめから測りなおしてください。それでも同じ表示が出るときは、医師に相談してください。(65ページ参照)

●血糖値が20mg/dLより低い。

・テスト用チップ(白)を使って本体の機能をチェックし、はじめから測りなおしてください。それでも同じ表示が出るときは、医師に相談してください。(65ページ参照)



●電池がなくなりかけている。

・「点滅」のときはできるだけ早く2個とも新しい電池(単4形アルカリ乾電池)と交換してください。

・「点灯」のときはすぐに2個とも新しい電池(単4形アルカリ乾電池)と交換してください。(61～62ページ参照)

（音声は出ません）

●表示がなにも出ない。

・[電源]ボタンは押しましたか？ もう一度1秒間押し続けてみてください。
・電池の入れかたは間違っていませんか？ もう一度確認してください。（13ページ参照）
・電池が古くなっていませんか？ 2個とも新しい電池（単4形アルカリ乾電池）と交換してください。（62ページ参照）
・電池交換をしてから電源ボタンを押しても表示が出ない場合は、リセットボタンを押してください。（63ページ参照）
・それでも表示が出ない場合は、テルモ·コールセンターにご連絡ください。

●測定可能な状態。

・測定をはじめてください。

（音声は出ません）

●記憶を消去している状態。

・消去が完了するまでそのままお待ちください。
（64ページ参照）

（音声は出ません）

●測定値を自動的に記憶した。
●記憶の呼び出しをしている。
●測定が終わった。

測りかたで血糖値が変わることがあります

次のような場合には、正しく測定ができないことがあります。

測定用チップの先端を離すタイミングが早い、または遅い

1. 「ピー」と鳴る前に測定用チップ先端を血液から離すと、正しく測定できないことがあります。
2. 「ピー」と鳴った後、測定用チップ先端を血液に長くあて続けると、正しく測定できないことがあります。

血液を出してから時間がたった

血液は、空気に触れるとただちに凝固がはじまります。凝固が進んだ血液では、正しく測定できないことがあります。できるだけ早く吸引してください。また、測り直すときは、血液をふき取り、はじめからやり直してください。

吸引しても測定がはじまらず、血液を付け足した

吸引中、測定用チップを血液から離し、再度血液を吸引すると、途中で空気が入り正しく測定できないことがあります。新しい測定用チップと交換後、血液を適量（約2.5ミリの球）出し、1回で吸引して測定してください。

血液がなかなか出ず、無理やり押し出した

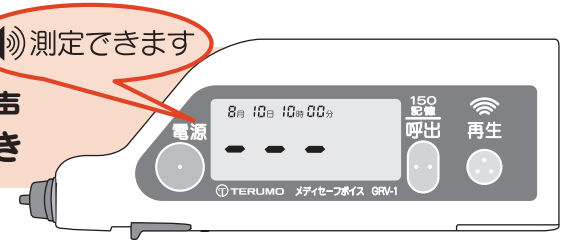
無理やり押し出すと、皮下組織から透明な細胞内の液が出て、血液と混じり、正しく測定できないことがあります。このようなときは、28ページをご覧になり、穿刺の深さを調節してください。

測定用チップのフィルムシールをはがしてから、時間がたった

測定用チップのフィルムシールをはがしてから時間がたつと、測定用チップ内の試験紙が湿気を帯びて、正しく測定できないことがあります。フィルムシールをはがしたら、すぐに使ってください。

血液を吸引しても測定値が出ない？

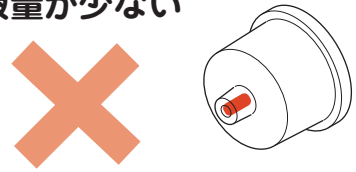
1 吸引する前、「測定できます」と音声が出て[- - -]と表示されていたとき



血液の量が少ない。

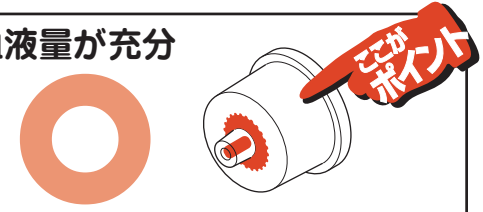
指先の血液を拭き、新しい測定用チップをつけて最初から測りなおしてください。
再び穿刺した後、血液が約2.5ミリの球状になってから吸引してください。

血液量が少ない

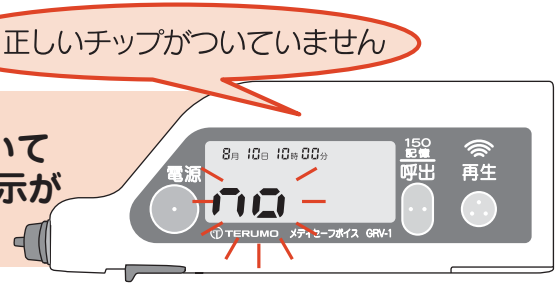


血液が測定用チップ内の試験紙まで届いていない

血液量が充分



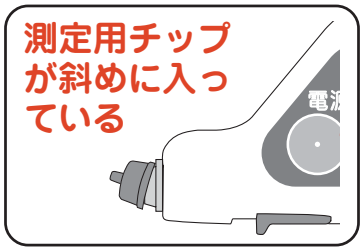
血液が測定用チップ内の試験紙まで届き、広がっている

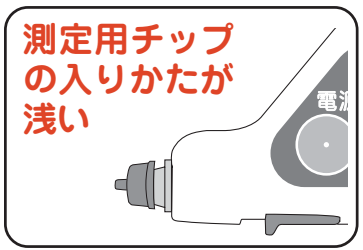


2 吸引する前、「正しいチップがついていません」と音声が出て[no]表示がついたり消えたりしていたとき

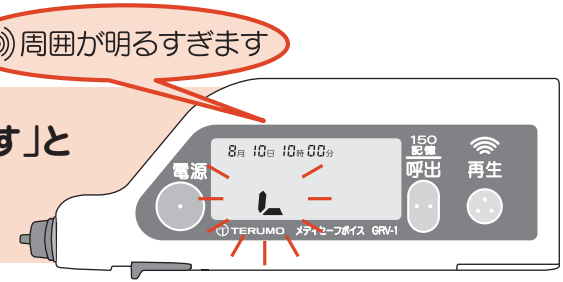
吸引する前には「測定できます」と音声が出て、表示が[- - -]になっていることを確認してください。

「正しいチップがついていません」と音声が出て表示が[no]になっているのは、測定用チップが斜めに入ったり、入りかたが浅いとき、また使用済みの測定用チップがついていることを示しています。この場合、吸引する前も後も表示は[no]になっています。新しい測定用チップを正しくつけ[- - -]表示になることを確認してはじめから測りなおしてください。





・それでも[no]が表示される場合は、52ページを参照してください。

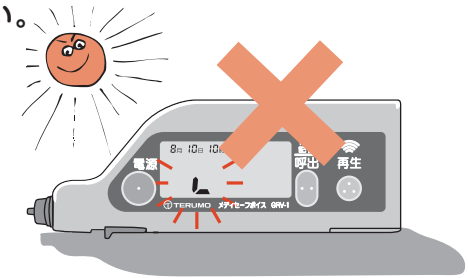


3 吸引する前、「周囲が明るすぎます」と音声が出て[L]表示がついたり消えたりしていたとき

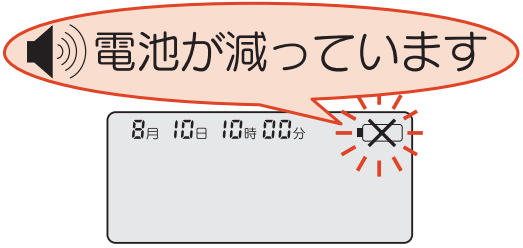
吸引する前には「測定できます」と音声が出て、表示が[- - -]になっていることを確認してください。

「周囲が明るすぎます」と音声が出て表示が[L]になっているのは、周囲が明るすぎて測定できないことを示しています。吸引した後も明るすぎる場合は[L]表示が続き、適正な明るさになれば[no]表示に変わり測定できません。新しい測定用チップをつけ、測定用チップを暗いほうに向けるか、直射日光の当たらない場所に移動し、[- - -]表示になることを確認して、はじめから測りなおしてください。

・それでも[no]が表示される場合は、52ページを参照してください。



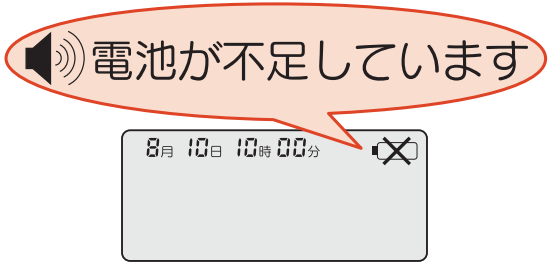
電池交換の音声・サインが出たら



「電池が減っています」と音声が出て、 がついたり消えたりするとき

電池が消耗してくると、表示部の電池マーク が点滅をはじめます。

→この状態でも測定できますが、できるだけ早く電池(単4形アルカリ乾電池)を2個とも新しいものと交換してください。



「電池が不足しています」と音声が出て、 がついたままのとき

電池マーク が点灯表示になった場合、血糖計は使用できません。

→すぐに、電池(単4形アルカリ乾電池)を2個とも新しいものと交換してください。

・電池の入れかたは13ページの「電池を入れる」を参照。

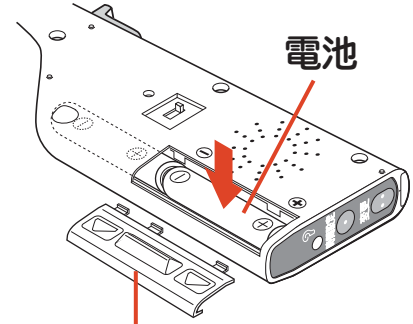
⚠警告

誤って電池を飲み込まないよう気をつける

電池は誤飲の危険があります。
万一飲み込んだ場合は、直ちに医師へご相談ください。

⚠注意

- 電池の交換は、電池ボックスのフタをはずしてから20分以内に完了してください。電池を取りはずして20分を超えると、時計の設定がずれることがあります。
- 電池は単4形アルカリ乾電池を、2本とも＋側を本体の⊕マーク側に合わせて入れてください。入れまちがえると記憶データが消え、時計の設定が解除されることがあります。(13ページ参照)
- 電池交換の際に、電池に油やほこりなどがつかないようにしてください。故障の原因になります。
- 使用済みの電池は他のゴミと一緒に捨てないでください。また、火の中に投入しないでください。事故などの原因になります。



●新しい電池で約500回測定できます。

交換用の単4形アルカリ乾電池は、電器店、コンビニエンス・ストアなどでお買い求めください。

特殊な使いかた

血糖計のリセット

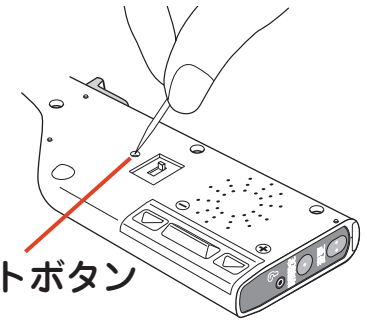
つぎのような場合には、リセットの処置をしてください。

●電源ボタンを押したのに、なにも表示が出ない。
（電池が切れていない場合）

●表示は出ているが、電源ボタンを含め、どのボタンを押しても表示が変わらない。

血糖計裏面のリセットボタンを先の細い棒で押す。
（シャープペンシル、エンピツは使わないでください。）

リセットボタンを押しても、
時計の設定や記憶は消えません。



記憶を消したいとき

（全部の記憶が一括で消去されます。ひとつひとつの測定値を個別に消去することはできません。）

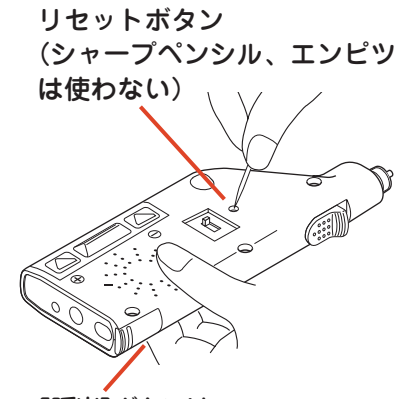
1 **電源を入れる。**
このとき[ ]がついていると、記憶を消去できないことがありますので、新しい電池（単4形アルカリ乾電池）と交換してください。

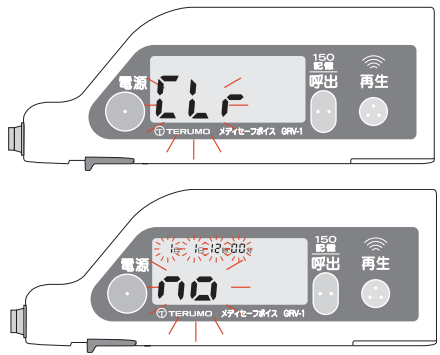
2 **[呼出]ボタンを押す。**

3 **[呼出]ボタンを押したまま、血糖計裏面のリセットボタンを先の細い棒で軽く押し、すぐに離す。**
[呼出]ボタンはそのまま押し続ける。

4 **約1秒後、[CLr]が表示される。**
[CLr]が出たら、[呼出]ボタンから指を離してください。

5 **約2秒後[CLr]が消え、全部の表示が出た後、[no]と「1月1日12時00分」が出たら、記憶消去は完了。**
このとき、時計の設定も解除されます。日付・時刻をもう一度設定してください。（14〜16ページ参照）



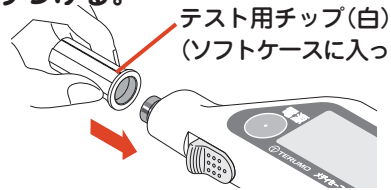


血糖計の作動テスト：テスト用チップ(白)の使いかた

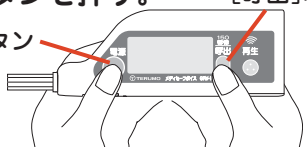
血糖計が正しくはたらくかどうかを確かめたいときは、テスト用チップを使い、つぎのようにテストします。

1 電源を切る。

2 テスト用チップ(白)を血糖計の先に取りつける。



3 [呼出]ボタンを押したまま[電源]ボタンを押す。



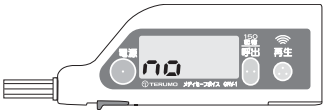
4 [CAL]が表示され、テストできる状態になる。

5 もう一度[呼出]ボタンだけを押す。

6 [YES]が表示されたら、血糖計が正しくはたらいています。(→ 手順7へ)

[no]が表示されたら、血糖計が正しくはたらいていません。

- テスト用チップやチップ装着部の中のホコリ・汚れなどを調べ、乾いた綿棒できれいにしてください。(45ページ参照)
- もう一度 手順1～4の操作をして、それでも[no]が表示されたら、病院またはテルモ・コールセンターにご連絡ください。



7 [電源]ボタンを1秒以上押し続けて電源を切る。(いったん電源を切ってからでないと血糖測定できません。)

8 テスト用チップを取りはずして、ソフトケースに保管する。

製品一覧

品　名		包装単位	製品コード
測定用チップ	メディセーフチップ	25個 30個	MS-GC25 MS-GC30

・フィルムシールが緑色の測定用チップをご使用ください。

穿刺ペン	メディセーフファインタッチ	1本	MS-GN02
針	メディセーフ針(ファインタッチ専用)	30本	MS-GN4530

・メディセーフファインタッチにはメディセーフ針（ファインタッチ専用）をご使用ください。

血糖計 (音声機能付き)	メディセーフボイス GRV-1	1台	MS-GRV1

(注）メディセーフボイスと併せて測定用チップ、穿刺ペン、針をご購入ください。

血糖計(単品)	メディセーフミニ GR-102	1台	MS-GR102
メディセーフミニ血糖測定セット		1セット	MS-GK03

・メディセーフミニ血糖測定セットには、メディセーフ針(ファインタッチ専用／30本)、
メディセーフファインタッチ(1本)、メディセーフミニGR-102(1台)が入っています。

血糖計の仕様

機器の区分	高度管理医療機器　特定保守管理医療機器
一般的名称	自己検査用グルコース測定器
販売名	メディセーフボイス GRV-1
医療機器許可番号	19BZ0016
型式	GRV-1
コード番号	MS-GRV1
電源	単4形アルカリ乾電池×2
測定範囲	血糖値20～600mg/dL
消費電力	電源ON時:約600mW　電源OFF時:約100μW
電池寿命	約500回使用
電撃保護	内部電源機器　B形
使用環境	周囲温度:10℃～35℃、 相対湿度:30%～85%(ただし結露なきこと)
記憶容量	最大150回分(自動記憶)
時計精度	約±5分/月以内
外形寸法	幅 約154mm、奥行 約57mm、高さ 約16mm
重量	約95g(電池2本含む)

・製品の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

切り取り線

保証規定

メディセーフボイスGRV-1の保証期間はお買い上げいただいた日から3年です。正しい使用状態で、この期間内に万一故障が生じた場合には、保証書の記載事項にもとづき無償修理いたします。期間内でも保証書がない場合は有償修理になります。

(1) 保証期間は、お買い上げ後3年間です。

(2) ご使用中、故障が発生した場合はお買い上げの販売店またはテルモ・コールセンターにお問い合わせください。

(3) ただし、下記の場合は保証期間中でも有償になります。

イ. ご使用上で取扱の過誤により発生した故障。

ロ. 製品の改造、不当な修理により発生した故障。

ハ. 火災、地震、水害等天災地変などの不可抗力による故障および損害。

ニ. 故障の原因が本製品以外に起因する場合。

ホ. 消耗部品

ヘ. 保証書のご提示がない場合。

(4) 保証書は再発行いたしません。大切に保存してください。

(5) 本保証書は日本国内においてのみ有効です。

◆お問い合わせ先

テルモ・コールセンター
0120-76-8150
(9:00～17:00 土・日・祝日を除く)

品質保証書

この度は、本製品をお買い上げくださいましてありがとうございます。品質には万全を期しておりますが、通常の使用において、万一故障が発生しましたときは保証規定により無償修理いたします。

製品名：メディセーフボイス GRV-1

お名前

ご住所　〒□□□ - □□□□

TEL:　　（　　）

お買い上げ販売店名

㊞

担当者名

お買い上げ年月日　　年　月　日

製造販売業者：テルモ株式会社
〒151-0072　東京都渋谷区幡ヶ谷2丁目44番1号

切り取り線

＊MS69JV001J＊

この血糖計は、メディセーフボイス GRV-1 です。
血糖測定システム メディセーフに
関するお問い合わせは

テルモ・コールセンター
0120-76-8150
(9:00～17:00 土・日・祝日を除く)

お問い合わせの前に
- ●測定に必要なものをお手元に用意してください。
- ●次のことをあらかじめ確認してください。
  - 血糖計の製造番号（血糖計裏面に記載）：
    シリアル番号（血糖計裏面に記載）：
  - 測定用チップの製造番号／使用期限：
    （測定用チップの箱に記載）

テルモホームページアドレス　http://www.terumo.co.jp/

高度管理医療機器　特定保守管理医療機器
一般的名称　　：自己検査用グルコース測定器　販売名：メディセーフボイスGRV-1
製造販売業者　：テルモ株式会社　東京都渋谷区幡ヶ谷2丁目44番1号
医療機器許可番号：19BZ0016
ⓣ、TERUMO、テルモ、メディセーフ、メディセーフボイス、ファインタッチはテルモ株式会社の登録商標です。

テルモ株式会社　2005年10月　MS_MS69JV001J_J_50_001